

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成 28年												平成 29年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月 ~7日	5月 ~14日	5月 ~21日	5月 ~28日	6月 ~4日	6月 ~11日	6月 ~18日	6月 ~25日	7月 ~2日	7月 ~9日
カンピロバクター	72	56	111	153	116	189	214	150	101	118	66	84	61	68	80	122	9	30	19	25	24	34	31	29	21 (24)	23
病原性大腸菌	140	146	163	167	150	157	240	182	166	227	180	147	107	105	89	113	6	7	37	14	27	60	26	22	28 (30)	46
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	3	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
サルモネラ	12	4	2	8	12	4	19	21	12	16	4	6	0	1	7	11	2	2	3	3	4	2	3	4	3	2
黄色ブドウ球菌 MSSA	23	20	25	14	19	32	14	24	23	27	8	15	6	11	12	15	2	5	1	1	8	0	9	4	7	6
黄色ブドウ球菌 MRSA	11	11	16	21	20	27	24	19	19	18	14	20	16	19	13	17	5	4	3	3	5	3	11	4	6	10
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	0	3	3	1	9	10	9	4	2	2	0	2	1	3	0	0	0	0	2	1	1	1	0	0
ロタウイルス	4	19	29	24	29	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	6	0	1	3	2	1	0	2	0	0	1
アデノウイルス	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	20	20	5	9	2	2	5	0	0	0	0	21	7	4	8	6	0	2	7	2	4	2	1	6	2	4

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

広島県感染症発生動向週報

平成29年第27週(7月3日~7月9日)

2 一類-二類-三類-四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市	
一類	0	発生なし	0								
二類	7	結核	7					7			
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1	1							
四類	1	日本紅斑熱	1			1					
五類全数	6	急性脳炎	1					1			
		レジオネラ症	2			1				1	
		後天性免疫不全症候群	1						1		
		梅毒	2					1			1

注) 西部 … 大竹市, 廿日市市, 府中町, 海田町, 熊野町, 坂町, 安芸高田市, 安芸太田町, 北広島町, 江田島市
西部東 … 竹原市, 東広島市, 大崎上島町
東部 … 三原市, 尾道市, 世羅町, 府中市, 神石高原町
北部 … 三次市, 庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第27週 7/3~7/9)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. 梅毒

1件の報告があり、今年の累計は27件となりました。また第28週にも1件(7月11日現在速報値)報告されており、過去最多のペースで増加しています。全国的に増加しており、特に、都市部を中心に多くなっています。

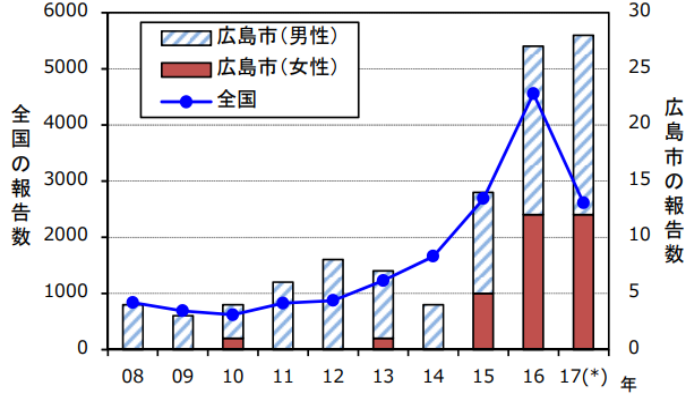
梅毒は梅毒トレポネーマの感染によって起こる性感染症です。感染が疑われる症状がみられた場合には、早期に医療機関を受診し、相談しましょう。梅毒に感染していたことがわかった場合は、パートナーと一緒に検査を行い、必要に応じて一緒に治療することが重要です。

2. 手足口病

定点当たり5.50人の報告があり、前週と比べて増加しました。全国的に報告数が増加しており、注意が必要です。

体調管理に注意し、手洗いの励行、排泄物の適切な処理、タオルの共用は避けるなど、感染予防対策を徹底しましょう。

梅毒の年間報告数の推移



(*) 広島市:2017年7月11日現在、全国:2017年第26週現在

【参考】厚生労働省「梅毒に関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	-	-	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	3	0.13	0.88	
小児科	咽頭結膜熱	17	0.71	0.82	→	眼科	RSウイルス感染症	6	0.25	0.10	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	48	2.00	2.09	↔		急性出血性結膜炎	1	0.13	0.03	
	感染性胃腸炎	185	7.71	4.97	↔		流行性角結膜炎	12	1.50	0.68	↔
	水痘	3	0.13	0.78		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.11	
	手足口病	132	5.50	2.87	↗		無菌性髄膜炎	-	-	0.06	
	伝染性紅斑	9	0.38	0.29			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.17	
	突発性発しん	12	0.50	0.62			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	-	-	0.07			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	18	0.75	2.04	↗						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	7	80	男性(30歳代)・推定感染地域:国外・1人、男性(40歳代)・1人、男性(70歳代)・2人、女性(70歳代)・2人、女性(80歳代)・1人
5	急性脳炎	1	2	女性(60歳代)
5	梅毒	1	27	男性(40歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(40.5) 紅斑 咽頭炎 鼻炎	1	男	2017/06/03	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の発疹性疾患	発熱(40.0) 紅斑 結膜炎 リンパ節腫脹 イチゴ舌	6	男	2017/05/27	咽頭拭い液	アデノウイルス5型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載